

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	B	配分額	750,000 円
研究課題	科学的思考による図画嫌いを克服する光学装置に関する研究		

研究代表者

氏名 金子 亨	所属 美術・書道講座	職名 教授
---------	------------	-------

研究分担者

氏名 尾関 幸	所属 美術・書道講座	職名 准教授
正木 賢一	美術・書道講座	准教授
藤井康子	大分大学教育福祉科学部 芸術・保健体育教育講座	講師

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

本研究課題は、西欧の美術アカデミーで実施されたカリキュラムの成立と変遷の調査と、デビット・ホックニーの15世紀以降の絵画の作品制作への光学装置の使用に関する仮説を基盤として研究を進めた。学校教育、社会生活で重要となる表現活動の原点「眼で見た対象や思考を図示化する表現力」の獲得を学校教育において必要なことであるという考えを基にいかにして、子供たちの共通感覚として素描力を身に着けるかを研究の中心においた。しかし、現実の小学校での図画教育はわずかな時間しか与えられていないことから造形遊びが主流となり、図画を描く時間が少なくなり、高学年になると図画嫌いの児童も増加している状況の原因を考察した。研究期間が1年間では時間不足の為、西洋アカデミーの研究は継続研究として持ち越した。

今日の情報化社会では、学校教育や社会活動の中で言語として視覚的イメージを伝達し合い、共通理解を共有する手段を獲得することが、ビジュアル・リテラシーの能力とともに不可欠になってきている。「客観的で普遍的な共通言語の獲得」という観点から人間の視覚機能と手による表現力の強化について考察した。そのための描画のための補助機材として西欧で描画用補助機材として発展してきた初期光学装置の活用により、描画活動への興味と補助機材としての活用について研究を行った。

(1) 収集した資料の分析より、レンズ、鏡、光学機器の多種多様な形態、機能、性能の違い。時代よっての使用の仕方の違い等の情報を得ることができた。

(2) 学校教育で、創造性・個性の尊重の基に情操教育的面の強い図画・工作、美術教育に科学的思考が取り入れられることや、レンズ、鏡、ガラス等の機材を基本とした光学機器の発展の機材の構造を理解することで、写真・映像機器の基本構造の理解に繋がる。

(3) カメラ・ルシーダ、カメラ・オブスキュラを使用した「科学の祭典」でのブースでの活動は児童に興味深く受け取られ、制作されたスケッチ類も完成度の高いものが得られた。スケッチの対象と画用紙の間に光学機器を加えることで、児童にとって興味が膨らんだ。

(研究協力者)

児玉 沙矢華 (東京学芸大学附属国際中等教育学校 講師)

佐藤 みちる (東京学芸大学 芸術・スポーツ文化課程美術専攻3年)

## 研究成果発表方法

報告書の作成を行った，量が多いので学会は無理なので，研究の概要を 25 年の本学の芸術スポーツ科学系紀要に発表予定。

平成 23 年度重点研究費報告書『科学的思考による凶画嫌いを克服する光学装置に関する研究』  
美術・書道講座 24 年 3 月 31 日